

# トマトかいよう病耐病性の品種比較及び接ぎ木の効果

福島県農業総合センター 生産環境部 作物保護科

## 1 部門名

野菜—トマト—病害虫

## 2 担当者名

大竹裕規、堀越紀夫

## 3 要旨

トマトかいよう病は県内主要産地で問題となっている重要病害であり、一度発生すると防除が難しい。そこで県内で導入されている各品種の耐病性及び接ぎ木の効果を調査し、発病を抑制する品種を明らかにした。

- (1) 細菌懸濁液を接種源とし、トマトに刺傷接種した結果、「グランシールド」、「アシスト」、「キングバリア」で発病が認められなかった (図1)。
- (2) 「グランシールド」、「アシスト」、「キングバリア」に接ぎ木することで土壌からの伝染を抑えた (表1)。

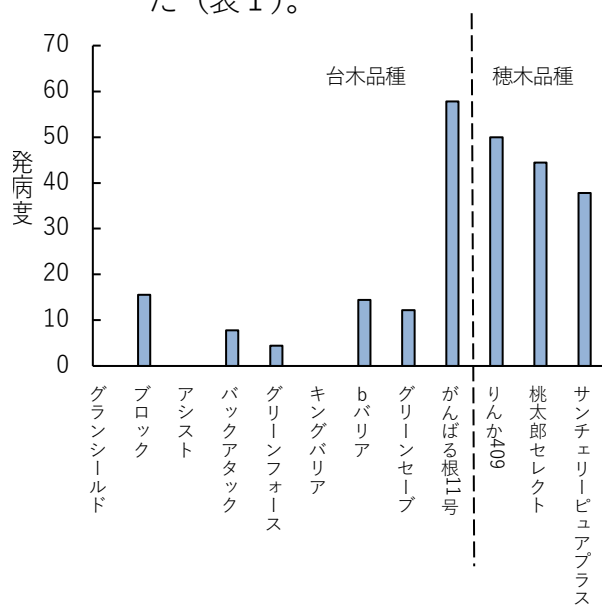


表1 トマトかいよう病の耐病性品種を接ぎ木した場合の効果

接ぎ木	供試品種 (穂木+台木)	指数別 発病株数				発病株率 (%)	発病度 a)
		0	1	2	3		
接ぎ木	りんか409+グランシールド	10	0	0	0	0	0
	りんか409+アシスト	10	0	0	0	0	0
	桃太郎セレクト+キングバリア	10	0	0	0	0	0
	りんか409+ブロック	7	3	0	0	30	10.0
自根	りんか409	5	3	2	0	50	23.3
	桃太郎セレクト	4	5	1	0	60	23.3

\* 1/5000a ワグネルポット定植時に細菌懸濁液を土壌灌注した

a) 発病度 = { Σ (指数別発病株数 × 発病指数) / (調査株数 × 3) } × 100

発病指数：0；無発病、1；1~2枚の複葉の萎れ、  
2；3枚以上の複葉の萎れ、3；株全体の萎凋

図1 トマトかいよう病に対する品種別発病抑制効果

発病度 = { Σ (指数別発病株数 × 発病指数) / (調査株数 × 3) } × 100

発病指数：0；無発病、1；1~2枚の複葉の萎れ

2；3枚以上の複葉の萎れ、3；株全体の萎凋

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3~7年度
- (2) 研究課題名 総合的病害虫管理 (IPM) による環境と共生する農業技術の確立

## 5 主な参考文献・資料

なし